

審査の結果の要旨

氏名 臼井 由利子

本研究は、出産恐怖感（Fear of childbirth: FOC）を抱く妊婦の中で、研究および臨床的介入が必要と考えられる妊婦を特定するために、妊娠後期の妊婦を対象に日本語版 Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire (JW-DEQ) を使用し、クラスター分析によって重度の FOC を抱く女性の質的に異なるグループが存在するか明らかにすることを目的とした。さらに、そのグループを特定するための JW-DEQ のカットオフ値を設定すること、またその関連要因を明らかにすることを目的とし、下記の結果を得ている。

1. クラスター分析により、初産婦は 4 クラスター、経産婦は 2 クラスターに分類され、それぞれに通常群とは質的に異なる重度の FOC を抱える女性のグループが存在した。
2. 重度の FOC を特定するための JW-DEQ のカットオフ値は、初産婦では 77/78 点、経産婦では 62/63 点であった。
3. 初産婦・経産婦ともに、胎児に対する不良なボンディング、抑うつ症状、低い Sense of coherence が重度の FOC と関連していた。
4. 経産婦では、前回の出産への満足感と助産ケアに対するより好意的な受け止めが重度の FOC と負の関連を示した。

以上、本論文は妊娠後期の妊婦を対象に JW-DEQ を使用し、クラスター分析によって正常群とは質的に異なる重度の FOC を抱く女性のグループの存在を明らかにした。今後、通常ケアとは異なるさらに高度な介入の必要性が示唆された。さらに初産婦・経産婦それぞれで、重度の FOC を呈する女性を特定するための JW-DEQ のカットオフ値を設定したことは、今後の研究でアプローチすべき妊婦の特定の根拠となりうる。さらに、初産婦・経産婦それぞれの重度の FOC 群に関連する要因を明らかにしたことは、臨床実践で介入を必要とする重度の FOC を抱く妊婦のアセスメントと効果的な介入方法の検討に重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（保健学）の学位請求論文として合格と認められる。